

おじさんの青春日記 くそのちく

新世紀突入記念！ 特別付録

おじさん、おばさん必読！

おじさんの新・国語辞典

死語の部

【愛】金銭で表現する人間の感情のこと。昭和後期、美空ひばりの名曲「愛算々」が流行しこの傾向がなお顕著となった。

【愛玩】あいがん。動物。子供の躰(しつけ)を放棄した主婦などが人間に比べ飼育の容易な小動物を溺愛する現象。

【商い】語源は「飽きない」。悪徳新商法が次々に現われ、刺激的でない良心的な昔ながらの商法は消費者から飽きられつつある。

【意匠】装飾的考案。昔は美校出のデザイナーの独壇場だったが、今やパソコン操作に長けた情報処理技術者が専ら従事するようになった。

【花魁】おいらん。高さ十センチほどもある履物をはき我が物顔で繁華街を闊歩する若年婦女子をさす。なかにはこの履物のまま自動車を操り、事故を起こす低脳者もいる。

【釜の飯】かまのめし。同じ を食った仲、と言った時代もあったが、今はPTA帰りのオバサン達が群れをなしてゲイバーで食事や飲酒にふけり狂騒する有様をさす。

【諫言】かんげん。大臣が切腹覚悟で殿様を説諭すること。サラリーマンの世界では部下への言葉と上司への言葉を巧みに換えて使い分けることを言う。この場合、換言、と書く。

【肝】きも。大らかで豪快な男を が太い、と言った時代があった。現代は男子の肝(臓)が錆びついて退化しつつあるという。
「逆フォアグラ症候群」と命名されている。

【金玉】厚生省調査によれば日本男子の権威低下に伴い、成人男子の精子の量が激減してきているという。医学界ではシドニーオリンピックにちなんで評価を一ランク下げ、「銀玉」と呼称変更することが検討されている。

【玄人】くろうつと。昔は花柳界等で働く女性をさした。今日では一般OL、女子大生などの風俗営業分野への進出が著しくなっており職業区分が不可能となり、労働省を悩ませている。対：素人。

【恋文】こいぶみ。怪音とともに小型機器に夜昼分別なく着信する、世間迷惑な異性間の往来文。

【高利貸し】テレビなどでタレントを用いて安易に高利息の金銭借入れをすすめる企業。無人貸出機を開発し、貸し手の良心の痛みを軽減する考案もなされている。

【腰巻き】男女が本来上半身に着用するべきセーター等を腰に巻き、袖で結んで歩行する現代ファッション。大正時代珍重された桃色の毛糸腰巻きの名残り。

【選良】せんりょう。国家、地域のために私心を捨てて尽くす人のこと。特に代議士をさす。最近では銭量(せんりょう)の字を充てられることもある。

【獅子頭】ししがしら。東京・渋谷界隈を闊歩する子女の髪型をさす。白、金、銀などの極彩色で彩る。狸のごとく両目の周囲を縁どる隈(くま)塗りは歌舞伎の舞台化粧の影響、ともいわれてイナイ。

【始末】をす、とは節約、儉約するの意。私欲のためでなく、省資源、環境配慮という点から極めて今日的意味をもつ言葉。

【純潔】じゅんけつ。もはや日本に存在しない現象といわれ、文部省においてこの単語の辞書、教科書等からの削除が真剣に議論されている。

【女傑】じょけつ。かつては男まさりの有能、闊達、大胆な女性をさした。現代においては至極普通の有様となり、かわって「男傑」という言葉が辞典に新たに加わった。

【ズロース】女性が着用するやや長めの下着。省資源が叫ばれてこのかた、局所を蔽う布地が極端に小さくなり用途効果に疑問が呈されるようになった。英：変化 ズロース、ズル、ズロウン

【青雲の志】せいうんのこころざし。昔は、大志を抱いて懸命努力を続ける青年の情熱の意だったが、現代では「留学」と称して目的もなく海外に出かけ、イエローキャブなどといわれ現地住民の輦蹙（ひんしゆく）をかう婦女子をさす。性運の志、とも書く。

【星宿】せいしゆく。倒産、家出などで家を失ったホームレスの意。

【帝都】東京の意。在東京のテレビ局等では日本国に他に都市が無いのかのごとく帝都中心の低俗情報を専ら発信し、地方独自文化の発展を妨げ若者風俗の糜爛（びらん）を助長している。

【道徳】道で百円拾って徳（得）をした、というのが語源。

【売薬】ばいやく。越中富山の製薬会社販売員が家庭薬を担いで全国津々浦々の家庭を訪問販売していた時代があった。

現代ではインターネットを用いて不如意な男性にバイアグラなどを高額不法販売する行為をさす。

【腹】はら。心づもり、内心。今は「皮下脂肪」の多寡をさす。三段腹、五段腹、波状腹、太鼓腹と各種ある。

【パンパン】終戦直後、生きるためにやむなく米兵等に身体を供した女性達。現代は援助交際などとタワケタ表現のもとに、ケイタイ片手に不良中年等に対価を要求して遊び相手となる少女たち、をさす。

【PTA】（P）パパ（P）ママ（T）とも入る余地のない（A）遊び場所、の略語。頼りない夫への不満やオバサンパワー爆発の場となっているため、学校の先生方は会合前日に医師の検診を受けて会に臨んでいる。

【不定愁訴】ふていしゆうそ。昔は「ストレス」の意だったが、現代は帰宅拒否症など家庭内で居場所が定まらない父親など男性の不満をさす。不定住訴とも書く。

【踏み倒し】大店（おおだな）呉服商、土木請負業者などが幕府要人と結託し居直って、両替商（銀行）からの借財を勝手にチャラにすること。「借りたもの勝ち」の風潮が人心の荒廃を招来している。

【別嬪】べっぴん。テレビや雑誌等に多数登場する同じ化粧、表情をした無個性、低質の十代芸能人や一般子女をさす。心 と形容される女子は現代では稀少のものとされ珍重される。

【泡沫】ほうまつ。一九八〇年代後期、投機に走ってうたかたのごとく生まれ、またたく間に消えた資財とそれにより生まれた人心の乱れをさす。あわ。

【妾】めかけ。昔の大物政治家、実業家等の必須アイテム。今では普通のオバサンが容姿美麗な青年男子に金銭を貢ぐことをさす。

キムタク結婚！ ザマアミロ！ テレビ狂いのおばさんども！！

【遺言】 かつては故人の精神を遺族に伝えるものであったが、現代においては全くかえりみられることなく「遺産」のみに関心が集中するようになった。

【夜這】 よばい。古事記にもある由緒ある言葉。青年男子の寝所に時刻もわきまえず不法に訪問し性愛を教授する若年婦女子の行為。

【萬屋】 よろずや。人間の時刻概念を麻痺させ購買本能を24時間刺激する、コンビニエンスストアの意。因みに本辞典の編者は重度のコンビニ中毒患者。

【倫理】 中国五経「礼記」にある言葉。人として守るべきみち。現代においては個性や創造性が尊ばれるようになり、各人がその場のぎで自由に決定できる肩の凝らない世の中になった。

つづく

「おじさんの新・国語辞典」編纂室では皆様から「死語、新語、造語」などのご投稿をお待ちしています。採用分は次号「おじさんの青春日記」でご紹介いたします。採用分は高額の手料をお支払い イタシマセン。